

東京大学次世代都市国際連携研究機構

自己点検評価書

2025年2月

## 目次

総評 .....	4
1 はじめに.....	4
(1) 次世代都市国際連携研究機構の概要 .....	4
(2) 組織運営の状況.....	4
2 自己点検・評価項目 .....	5
3 自己点検の結果.....	5
(1) 社会連携講座の仕組みを活用した地域における活動.....	6
(2) 外部資金の獲得.....	6
(3) 国際的な学生教育環境の設置.....	6
(4) スタジオ型教育プログラムの実施.....	6
(5) フォーラム・研究会とネットワーク構築、学問領域間の知識循環と研究推進.....	6
(6) 東京大学の卓越性又は多様性の向上への貢献、継承された知識に新たな知見を加え、その学理体系を強化すること.....	7
(7) 優れた若手人材の育成に資すること .....	7
4 外部評価.....	7
(1) 機構の活動全体について .....	7
(2) 国際教育プログラム.....	8
1 機構の概要と設置目的 .....	10
2 体制 .....	10
2. 1 組織.....	10
(1) メンバー.....	10
(2) 機構の組織.....	11
(3) ワーキンググループ.....	12
(4) 組織の改編.....	13
2. 2 ホームページ.....	14
2. 3 財務.....	16
(1) 予算分類と執行方法.....	16
(2) 予算と執行状況.....	16
3 研究活動.....	18
3. 1 研究会.....	18
(1) 分野横断的研究会 .....	18

(2) 学会大会、シンポジウムの企画、共催.....	20
3. 2 調査活動.....	24
(1) 南欧の公共空間と災害履歴に関する都市調査.....	24
(2) 能登半島地震被災地調査 .....	24
(3) 台湾花蓮地震調査 .....	24
4 教育活動.....	25
4. 1 日越大学との合同講義 .....	25
(1) 2021 年度 .....	25
(2) 2022 年度 .....	26
(3) 2023 年度 .....	26
(4) 参加者へのアンケート .....	28
4. 2 チュラロンコン大学との合同講義.....	31
4. 3 留学生のサマーコース .....	32
(1) 2021 年度 UrbanTransition: Smart City, Sensor and Beyond.....	32
(2) 2022 年度① 高速道路と自動車.....	33
(3) 2022 年度② 「Railway System and Urban Development of Mega Cities 2022」 ..	34
(4) 2023 年度 Shinkansen Summer Seminar for International Students 2023 .....	35
(5) 2024 年度 City Transition : Smart City, Sensor and Beyond.....	35
(6) 参加者へのアンケート .....	36
4. 4 スタジオ型都市設計演習.....	37
(1) 2022 年度 .....	37
(2) 2023 年度 .....	38
(3) 2024 年度 .....	38
4. 5 復興にかかわる連続講義.....	42
5 社会活動.....	45
5. 1 宇和島市、愛南町、阿南市での事前復興のとりくみ.....	45
5. 2 国立科学博物館展示.....	45
5. 3 付知地域デザインミュージアム.....	45
6 今後の活動方針.....	47
6. 1 社会連携講座「次世代都市国際研究体」の開設.....	47
6. 2 今後の活動方針.....	48

## 巻末資料

次世代都市国際連携研究機構 中間報告のためのスライド (2025年1月)

NTT 東日本との共創「次世代都市国際研究体」の中間報告スライド (2025年2月)

研究、社会活動リスト

# 総評

## 1 はじめに

### (1) 次世代都市国際連携研究機構の概要

本連携研究機構は、COVID-19 によって全世界規模で引き起こされている分断や格差といった未曾有の課題を解決するインクルーシブ社会の実現を目指して、工学系研究科のみならず人文社会系研究科、経済学研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、地震研究所、生産技術研究所、先端科学技術研究センターなどと連携し、家族や地域、歴史と経済といった人文社会の各分野の都市研究におけるリサーチクエッションを出発点に、さまざまな分野のイノベーション実践力とを現場で結びつけ、国際的に研究教育プログラムを展開するための実践型連携研究機構を設立した。

リモート技術と復興に関連する外部資金によって設立している寄付講座・社会連携講座の協力を得て、研究・教育・社会活動を実施してきた。主なテーマとして、1) 歴史・人文社会研究を下敷きとした分断と格差を解決するための都市社会研究、2) COVID-19 の問題解決に向けたリモート社会研究、3) 巨大災害を想定したレジリエンス都市研究を、部局を超えた研究者で情報間場を生み出し、危機と平時の双方を想定した次世代都市研究の推進を図るとともに、4) 国際教育プログラムの実践を通じて、次世代都市の国際展開を試みた。

### (2) 組織運営の状況

本連携研究機構は 8 部局 26 人のメンバーで構成され、以下の体制で運営される。

#### (1) 機構長、幹事、運営委員会

機構長：羽藤英二（工学系研究科社会基盤学専攻教授）

幹事：赤司泰義（工学系研究科建築学専攻教授）

運営委員会：機構長、幹事と、各部局、ワーキンググループの代表者によって構成される。

#### (2) 事務局

事務局メンバー：中尾俊介（工学系研究科建築学専攻助教）

邱文心（工学系研究科総合研究機構特任研究員）

運営スペース：工学部 1 号館、334 号室（交通・都市・国土学研究室秘書室）

### (3) ワーキンググループ

設立目的に照らして以下の4つのワーキンググループを設置して機構メンバーを振り分け、研究、教育、社会活動の基礎単位とした。

ワーキンググループ1：リモート社会研究部会

ワーキンググループ2：インクルーシブ都市社会研究部会

ワーキンググループ3：レジリエンス都市研究部会

ワーキンググループ4：国際都市教育部会

### (4) 予算

本連携研究機構は社会連携講座、寄付講座の協力を得て活動をおこなうが、2021年度、2022年度の二年度は大学運営費の支給（年間1500万円）を受け、これを基礎的な活動予算とした。（2024年11月段階で97%執行済み。）

## 2 自己点検・評価項目

連携研究機構の設置目的および、「学の融合による新たな学問分野の創造（東京大学連携研究機構規則第4条）」に照らして、評価項目として以下のとおり7点挙げた。

- (1) 社会連携講座の仕組みを活用した地域における活動
- (2) 外部資金の獲得
- (3) 国際的な学生教育環境の設置
- (4) スタジオ型教育プログラムの実施
- (5) フォーラム・研究会とネットワーク構築、学問領域間の知識循環と研究推進
- (6) 東京大学の卓越性又は多様性の向上への貢献、継承された知識に新たな知見を加え、その学理体系を強化すること
- (7) 優れた若手人材の育成に資すること。

## 3 自己点検の結果

2024年12月の段階で設置目的に関わる諸活動を多面的に実践し一定の成果を挙げ、さらに、研究活動、教育活動、社会実践活動が相互に関連し、次世代の都市にアプローチするための新しい方法論を開拓するサイクルが構築されつつある。

## **(1) 社会連携講座の仕組みを活用した地域における活動**

愛媛県宇和島市、愛南町、徳島県阿南市での事前復興の推進にむけた諸活動に貢献したほか、国立科学博物館での関東大震災 100 年企画展への出展、東京における事前復興の浸透にむけたツアー、ワークショップの実施、岐阜県中津川市の中山間地域における地域史と次世代型交通に関わるシンポジウム、社会実験の開催など、多種多様なかたちでのアウトリーチをおこなった。

## **(2) 外部資金の獲得**

機構の活動をもとにした共同研究テーマに関わる科学研究費を獲得した。また、設立以来の機構の研究活動・教育活動・社会活動をさらに展開すべく、NTT 東日本との社会連携講座「次世代都市国際研究体」を設置予定である（講座開設の準備中）。

## **(3) 国際的な学生教育環境の設置**

ヴェトナム・日越大学との合同講義として機構独自の講座「ポストパンデミック時代の都市論」を 2021 年度～2023 年度にわたり開講した。また、タイ・チュラロンコン大学との合同講義、留学生のサマーコースを毎年開講した。

くわえて、大学院演習「復興デザインスタジオ」では、社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、新領域創成科学研究科などから留学生・日本人学生の履修者を得て、事前復興の実装にむけた実践的な都市計画演習を実施し、関連する演習として、国内外の復興にかかわる研究者、実務家、行政職員等の連続講義「復興デザイン学」、研究、設計の成果を社会へ還元する「復興デザイン実践学社会接続演習」、修士の専門的な研究を議論する場として「復興デザイン研究コロキウム」を開講した。

## **(4) スタジオ型教育プログラムの実施**

前述「復興デザインスタジオ」、社会基盤学科演習「基礎プロジェクト1」「応用プロジェクト1」に機構メンバーが参画し、地方自治体、土木・都市計画コンサルタントとの連携による地域での実践的な都市設計演習を実施した。

## **(5) フォーラム・研究会とネットワーク構築、学問領域間の知識循環と研究推進**

機構メンバーを中心としつつ、外部の研究者、実務者を招聘する分野横断型の研究会を定期的実施し、都市史学会、寄付講座「復興デザイン研究体講座」との連携によって大規模なシンポジウムを企画・運営した。これらの研究会、シンポジウムでの学際的交流によって共同研究プロジェクトが複数生まれている。

## **(6) 東京大学の卓越性又は多様性の向上への貢献、継承された知識に新たな知見を加え、その学理体系を強化すること**

研究会、対外的なシンポジウムにおいては常に既存の研究分野を横断したコラボレーションを重視し、各分野の先端的な知見を統合することによる新たな都市研究の課題、手法の開拓をおこなった。

## **(7) 優れた若手人材の育成に資すること**

特任助教、特任研究員を雇用し、学際的な研究交流の場を整備するとともに、共同研究や研究活動支援費のかたちで研究費の補助をおこなった。また、スタジオ型都市設計演習や留学生のサマーコースなどの教育活動やシンポジウムの企画運営において協働することを通して、研究や演習内容の社会実装や、国際的な教育活動、学会等を実践する方法を会得する機会を提供するとともに、社会と連携した研究テーマの構想を促した。

また、国際的な学生教育プログラム、スタジオ型都市設計演習においては、地域との密接な連携、交流のなかで大学院生が研究、実践をする機会を設け、参加学生が社会と接続したりサーチャクエスションを発掘するよう指導し、シンポジウム、研究会の場を開いて報告・討論の場を提供した。くわえて、研究成果や設計の成果を社会へ提起する手法を自ら構想するかたちを試験的に導入し、学生が当事者意識をもって地域課題に取り組む結果をうみ、かつ地域にとっても実りのある議論の場の創出に成功した。以上は主要には大学院修士課程の学生を対象としたものであるが、修士課程を修了した学生が社会に出て研究に従事し、あるいは実務を経て博士後期課程に再入学する事例が国内外で増加しつつある動向にかんがみれば、若手人材の育成にきわめて重要な意義を有する。

## **4 外部評価**

### **(1) 機構の活動方針について**

本連携研究機構の活動内容と今後の方針について COE、GCOE プロジェクトを主導したメンバーと意見交換を行う場を設置し、以下のコメントを得た。

日時 2024年12月6日 10:30~12:30

会場 東京大学工学部1号館 セミナールームA

参加者

藤野陽三（東京大学名誉教授、城西大学理事長）

伊藤毅（東京大学名誉教授）

松村秀一（神戸芸術工科大学学長）

横張真（東京大学特任教授）

参加者（機構メンバー）

羽藤英二、福田大輔、堀田昌英、邱文心、加藤耕一、赤司泰義、中尾俊介、春日郁朗

主なコメント

- ・海外の大学等との連携を広げ、国際的な評価の獲得を目標にした方が良い。
- ・GCOEの活動に鑑みれば、機構に関わっていない専門家をいかに巻き込むかが重要。少なくとも、社会基盤、建築、都市工などの専攻内で関心の交差する機構外の専門家との協働、情報交換は積極的に行う方が良い。
- ・社会連携講座、寄付講座などと連携した活動をしているのであれば、連携研究機構自体は社会連携講座、寄付講座等をゆるやかに包摂するかたち継続的に存在すると、外部資金への応募、講座の立ち上げ、ポストの設置等についての情報交換ができ、直接的な機構メンバー以外への認知度が向上し、メリットを感じることも多くなるのではないかと。
- ・建設系のうちハード系の専門分野のメンバーがより参画できるようにすると良い。現段階では i-Construction 分野が、今年度より寄付講座との連携を始めており期待される。
- ・トップジャーナルへの投稿と、分野を横断した総合的な視点による研究交流、実践の両立の具体的な手法は課題が残る。
- ・これまで機構が取り組んできた大学院修士課程の教育は GCOE が主対象としてきた研究者育成と同様に重要。研究者育成＝博士教育と固定的に考えず、修士課程の修了生が民間企業で研究を求められること、後に大学院に戻ることを想定してアカデミックな研究の訓練をする場を大切にされた方が良い。

## （2）国際教育プログラムについて

2021年～2023年の三年間、次世代都市国際連携研究機構のプログラムとして実施したヴェトナム・日越大学との国際共同講義「ポストパンデミック時代の都市論」について、日越大学の主な担当であった武田准教授と振り返りをおこなった。

日時 2025年1月30日 16:30～17:00

参加者

武田晋一准教授（拓殖大学国際学部、元日越大学准教授）

聞き手：福田大輔（機構WG4主査）、中尾俊介（機構事務局）

主なコメント

- 大学にかかわらず日本人学生の国際プログラムへの関心が低調である。  
日本人学生の海外への関心の低下、特に建設系の学生における海外志向がなくなっていると懸念される。
- 今回の共同講義に参加した日越大学学生からの評価はすこぶる高かった。  
日越大学は日本との関係を有する国際的な大学で、東京大学との共同プログラムも他にあるが、他大学の学生と交流する機会は意外に少ない。そのため、実際に東京大学の学生と議論できる機会は非常に刺激的であった。対面で行った 2022 年と 2023 年の講義は、オンライン開催の 2021 年よりも高い評価が得られていた。
- ミャンマーから日越大学へ留学している学生の英語力と積極性が高く、プログラムの活性化に貢献していた。
- 東京大学の日本人学生の参加人数は少ないが参加している学生は議論への参加に積極的であった。
- 今後の課題としては、プログラムに大学教員以外の実務者（ゼネコン、JICA、国交省など）を講師として招くことが挙げられる。また、日越大学のインターンシップの期間（2 週間程度）に合わせて開催し、そのなかで日時を分散的に設定していたが、国際学会のように数日間まとまったスケジュールで開催する方が講義時間外の交流が可能となり良いのではないか。
- 国際合同講義を開催するスキームは作ることができたので、たとえば講義のなかで関心の高かった自然災害やスマートシティなどをテーマにして開催できると良い。

# 1 機構の概要と設置目的

次世代都市国際連携研究機構は、COVID-19 に直面し、社会的な危機に対応する新たな学問領域の創設を目標として、次世代の都市研究を、1) 情報、2) 環境・歴史、3) 災害、4) 国際教育という視点で実践すべく設立された。

それぞれ1) 情報社会の新たな都市像と実装研究、2) 環境・歴史では、水環境やランドスケープを下敷きに「水と都市研究会」などを設立し、分野融合的な研究領域の創出を実現しつつある、3) 災害は、復興デザイン会議やスタジオ型都市設計演習を通じて社会と大学の接点を設け、新たな都市像および具体的な施設・インフラ整備の体現を実現、4) 国際教育を標榜し着実な成果を蓄積してきた。

## 2 体制

### 2. 1 組織

#### (1) メンバー

現在、8 部局 26 人のメンバーで構成される。2023 年度に退職したメンバーを含めたりストは下記のとおり。

#### 工学系研究科

小澤一雅	社会基盤学専攻教授（～2023 年度）
羽藤英二	社会基盤学専攻教授
石田哲也	社会基盤学専攻教授
福田大輔	社会基盤学専攻教授
堀田昌英	社会基盤学専攻教授
加藤浩徳	社会基盤学専攻教授
田島芳満	社会基盤学専攻教授
邱文心	総合研究機構特任研究員（2024 年度～）
加藤耕一	建築学専攻教授
赤司泰義	建築学専攻教授
大月敏雄	建築学専攻教授

中尾俊介	建築学専攻助教
浅見泰司	都市工学専攻教授
横張真	都市工学専攻教授（～2023年度）
小熊久美子	都市工学専攻教授
西成活裕	航空宇宙工学専攻教授（2023年度～）

#### 人文社会系研究科

勝田俊輔	西洋史学専門分野教授
祐成保志	社会学研究室准教授

#### 経済学研究科

大橋弘	経済専攻教授
柳川範之	経済専攻教授

#### 新領域創成科学研究科

本田利器	国際協力学専攻教授
------	-----------

#### 情報理工学系研究科

國吉康夫	知能機械情報学専攻教授
葛岡英明	知能機械情報学専攻教授

#### 地震研究所

市村強	地震研究所教授
Madgededara Lalith Wijreathne	地震研究所准教授

#### 生産技術研究所

岸利治	生産技術研究所教授
目黒公郎	生産技術研究所教授

#### 先端技術研究センター

春日郁朗	水環境制御研究室准教授
------	-------------

## （2）機構の組織

機構長：羽藤英二（工学系研究科社会基盤学専攻教授）

幹事（副機構長）：赤司泰義（工学系研究科建築学専攻教授）

運営委員：機構長・幹事と、各部局、ワーキンググループから1名ずつで構成。

羽藤英二	工学系研究科（機構長）
赤司泰義	工学系研究科（幹事）

石田哲也	工学系研究科
勝田俊輔	人文社会系研究科
大橋 弘	経済学研究科
本田利器	新領域創成科学研究科
葛岡英明	情報理工学系研究科
市村 強	地震研究所
岸 利治	生産技術研究所
堀田昌英	リモート社会研究部会
加藤耕一	インクルーシブ都市社会研究部会
大月敏雄	レジリエンス都市研究部会
福田大輔	国際都市教育部会

事務局：

中尾俊介（工学系研究科建築学専攻助教）

邱文心（工学系研究科総合研究機構特任研究員）

運営スペース：

2021年度：工学部11号館5階建設マネジメント研究室

2022年度以降：工学部1号館、334号室（交通・都市・国土学研究室秘書室）

### （3）ワーキンググループ

次世代のインクルーシブな都市の実現にむけ、研究・実践の視点として1) 情報、2) 環境歴史、3) 災害、4) 国際教育の四つを設定し、それぞれに対応するワーキンググループを活動の単位とした。ワーキングの活動は、それぞれの主査・副査のもと部会会議で方針を決定し、定期的なミーティング、研究会、対外的なイベントを開催する。各ワーキンググループのメンバーは以下のとおり。

#### ワーキンググループ1：リモート社会研究部会

主査：堀田昌英、副査：葛岡英明、浅見泰司、石田哲也、西成活裕、大橋弘、國吉康夫、岸利治、邱文心

#### ワーキンググループ2：インクルーシブ都市社会研究部会

主査：加藤耕一、副査：勝田俊輔、小熊久美子、本田利器、祐成保志、西成活裕

#### ワーキンググループ3：レジリエンス都市研究部会

主査：大月敏雄、副査：中尾俊介、田島芳満、柳川範之、目黒公郎、市村強

ワーキンググループ4：国際都市教育部会

主査：福田大輔、副査：春日郁朗、加藤浩徳、赤司泰義、勝田俊輔、Madgededara Lalith

## 次世代都市国際連携研究機構

～危機から日常まで：未来社会研究の実践と展開に向けて～

- COVID-19によって全世界規模で引き起こされている分断や格差といった未曾有の規模の社会課題を解決を目指して、人文・社会科学系研究者の現場に根差したリサーチアクションとイノベーション実践力を現場で結びつけるための研究ハブ組織として実践型連携研究機構を設立する。
- 国内外の自治体と協力体制を構築し、さまざまな現場を対象に、インクルーシブ未来社会像を共有するための人文・社会科学の推進とそのための都市技術開発に取り組み、現場で自ら実践・学習していく国際スタジオ型リモート教育研究プログラムの実現によって新たな学問モデルを展開する。



### (4) 組織の改編

2023年度末に担当教員の退職による再編をおこなった。体制の変更は以下のとおり。

機構長：小澤一雅→羽藤英二

幹事：羽藤英二→赤司泰義

WG1 主査：浅見泰司→堀田昌英、副査：堀田昌英→葛岡英明

WG2 主査：横張真→加藤耕一、副査：加藤耕一→勝田俊輔

WG3 主査：羽藤英二→大月敏雄、副査：大月敏雄→中尾俊介

WG4 主査：福田大輔（変更なし）、副査：赤司泰義→春日郁朗

## 2. 2 ホームページ

2021年3月から機構ホームページを開設し、事務局にて運営し、機構の研究・教育活動の成果を報告し、開催予定のイベント、教育プログラムの募集をおこなっている。

機構 HP <https://iinu.t.u-tokyo.ac.jp/>



## 研究・教育活動



**Report**  
Summer Course for International Student 2024  
"City Transition: Smart City, Sensor, Mobility and Beyond"  
The City Transition Summer Course for International Student 2024 was held on September 9-10, 2024.



**【報告】** 公開セミナー  
災害被害の差正と弱者配慮に向けた包摂的な取組み  
次世代都市国際連携研究機構では、3月におこなった公開セミナー「災害被害の差正と弱者配慮に向けた包摂的な取組み」を開催しました。次世代都市国際連携研究機構公開セミナー「災害被害の差正と弱者配慮に向けた包摂的な取組み」【日時】2024年6月19日 18:00-19:30 日



**【報告】**  
能登半島地震・花巻地震調査報告会  
次世代都市国際連携研究機構にて、2024年11月1日に発生した能登半島地震と、4月1日に発生した花巻地震の被災地の調査報告会を開催しました。次世代都市国際連携研究機構公開セミナー「能登半島地震・花巻地震調査報告会」



2024年度都市デザインスタジオ  
宇和島事前復興地域デザインミュージアム  
2024年度も引き続き宇和島事前復興地域デザインミュージアム、東京大復興デザインスタジオを共同で開催します。今年度は「宇和島事前復興地域デザインミュージアム」と題し、事前復興のまちづくりをテーマに、学生が活躍します。



**【報告】**  
愛媛県大洲市にて高校生・大学生による事前災害をみこした事前復興ワークショップを開催しました。  
次世代都市国際連携研究機構「事前復興ワークショップ」が、愛媛県大洲市の事前復興推進委員会主催のワークショップ「事前災害をみこした事前復興ワークショップ」を開催しました。事前復興推進委員会のメンバーと連携し、事前復興のまちづくりをテーマに、学生が活躍しました。



**【報告】**  
都市史学会大会「大災害の記録と記憶」を共催しました。  
この年報は「大災害」をテーマとして、大災害の記録と記憶をテーマに、学生が活躍しました。

## NEWS

### お知らせ

- 2024.12.01 機関長挨拶が更新されました。
- 2024.11.28 **【報告】** 留学先のためのネットワークを構築しました。  
「Report」Summer Course for International Student 2024 "City Transition: Smart City, Sensor, Mobility and Beyond"
- 2024.07.16 メンバーの更新が完了しました。
- 2022.10.24 **【研究報告】**  
公開セミナー「防災と都市の発展と都市」を開催しました。
- 2022.09.27 **【報告】**  
留学先のためのネットワークを構築いたしました。
- 2022.09.07 **【研究報告】**  
公開セミナー「本論に特化してコンパクトであるべきなのか？」を開催しました。
- 2022.09.01 **【報告・研究発表】**  
「ネットワークのなかの都市」の発表を行いました。
- 2022.08.10 **【報告】**  
宇和島において「都市デザインスタジオ」連携調査会が実施されました。
- 2021.12.03 東京大学学術国際化推進事務局が紹介されました。
- 2021.09.10 特許情報誌の掲載のお知らせ (2021/10/10掲載)

## NEWS

## 2. 3 財務

### (1) 予算分類と執行方法

本連携研究機構は、社会連携講座や、寄付講座（i-Construction システム学寄付講座、復興デザイン研究体講座、福島沿岸地域デザイン研究体講座）と連携しつつ諸活動を実施してきた。

また、2021 年度、2022 年度の 2 年間は大学運営費より年間 1500 万円の支給を受け、基礎的な活動予算にあてた。同予算は 2022 年度より以下の 6 つに分類した。運営費と教育活動支援費を機構長・幹事・事務局にて管理・執行し、WG1～WG4 の活動支援費は各 WG で管理、執行した。

- ① 03RK400301 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教育研究費－1 2 運営費  
機構人件費、HP 維持費、助教活動支援費
- ② 03RK400302 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教育研究費－WG 1  
WG 1 の教育・研究活動への支援費
- ③ 03RK400303 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教育研究費－WG 2  
WG 2 の教育・研究活動への支援費
- ④ 03RK400304 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教育研究費－WG 3  
WG 3 の教育・研究活動への支援費
- ⑤ 03RK400305 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教育研究費－WG 4  
WG 4 の教育・研究活動への支援費
- ⑥ 03RK400306 工学系－連携研究機構－次世代都市国際－教研－教育活動支援費  
機構の教育活動のうち、講師謝金・旅費、雑費等にあてる予算

### (2) 予算と執行状況

2021 年度～2023 年度の決算、2024 年度の予算状況は以下のとおり。（単位：千円）

	2021年度 決算	2022年度 決算	2023年度 決算	2024年度 予算
人件費	1, 207	7, 300	6, 671	520
助教活動支援費	150	60	43	0
事務局経費	559	5	20	20

(HP含)				
研究活動支援費	0	2,705	8,242	621
教育活動支援費	310	422	0	0
執行	2,226	10,492	14,976	1,161
次年度繰越し	12,774	17,282	2,322	1,161

## 3 研究活動

### 3. 1 研究会

#### (1) 分野横断的研究会

ワーキンググループで企画し、機構のメンバーにくわえて外部研究者、講師も招聘しつつ分野横断的な研究会を実施した。2022 年度以降は報告者の意向にあわせて学内・学外への公開講座として開催した。各回のプログラムを以下に挙げる。

2021 年度

#### 6/16 ワークショップ「衰退期の都市と危機 –衰退する都市におけるインクルーシブ社会の形成に向けて」

横張真 趣旨説明

勝田俊輔「19 世紀ダブリンの衰退と危機」

加藤耕一「近代末期」としての現代？」

小熊久美子「感染症と都市」

討論

#### 7/19 ワークショップ「都市における集積の利益」

浅見泰司 趣旨説明

大橋弘「都市における集積の利益」

福田大輔「COVID-19 と交通・土地利用、都市・国土構造」

柳川範之「新たな距離概念の下での集積のメリットの変化」

討論

#### 8/13 ワークショップ「都市におけるつながり」

浅見泰司 趣旨説明

葛岡英明「都市におけるつながり CSCW+VR」

祐成保志「都市にとってコミュニティとはなにか」

堀田昌英「都市におけるつながり」

討論

2022 年度

#### 4/27 公開セミナー「社会 DX の推進」

浅見泰司 趣旨説明

小澤一雅「リモート社会を支える社会基盤システムの変革」

葛岡英明「カジュアルな対話の場としてのメタバースをめざして」

石田哲也「コンクリート建造物のデジタルツインによる建設・維持管理の高度化」

討論

#### 6/28 公開レクチャー「VR空間視点で見るメタバースでの経済活動について」

舟越靖 (株HIKKY)「VR空間視点で見るメタバースでの経済活動について」

討論

#### 8/23 公開セミナー「ネットワークのなかの橋梁」

中尾俊介 趣旨説明

勝田俊輔「18-19世紀ダブリンにおける架橋と都市政治」

羽藤英二「流動の中の都市—瀬戸内・旭川・高梁川・吉井川・鉄道橋の交通史—」

東出加奈子 (大阪成蹊大学) コメント

討論

#### 10/3 公開セミナー「本当に都市はコンパクトであるべきなのか？」

横張真「Grey and compact から Green and disperse へ」

福田大輔「次世代分散型の国土構造を見据えた交通体系について」

討論

#### 10/26 公開セミナー「水陸交通網の発展と都市」

中尾俊介 趣旨説明

中尾俊介「港湾整備からみた東京・横浜の都市形成」

東出加奈子 (大阪成蹊大学)「近代パリの河川港における物流と都市形成—舟運と鉄道の相互関係から—」

討論

2023年度

#### 6/8 公開レクチャー「建築から考える都市の集積・分散とインクルーシブネス」

加藤耕一「建築から考える都市の集積・分散とインクルーシブネス」

討論

#### 6/15 公開セミナー「リモート化の都市への影響」

和田吉史 (都市工学専攻)「テレワーク下における望ましい都市の構造 —効果的な通勤と在宅勤務の統合—」

長谷川啓太（社基基盤学専攻）「二拠点居住と集積の経済を考慮した立地均衡モデルの  
開発」

討論

#### 7/6 公開レクチャー「土地問題から考える都市の在り方とインクルーシブな社会」

小熊久美子 趣旨説明

吉原祥子（東京財団）「土地問題から考える都市の在り方とインクルーシブな社会」

討論

#### 7/30 公開セミナー「水沿居住の日伊比較」

中尾俊介 趣旨説明

小関玲奈（日本工営）「水害常襲地方都市の近代都市形成史」

益子智之（早稲田大学）「イタリア・フェッラーラの水辺空間と生活文化」

討論

#### 2/14 公開セミナー「Metaverse WindowScape」

畑田裕二（情報学環）・石田康平（デザイナー）「Metaverse WindowScape: 離れた外  
部と内部を繋ぐ新しい「窓」のふるまい学」

討論

2024 年度

#### 5/23 公開セミナー「能登・花蓮地震調査報告会」

中尾俊介 趣旨説明

松永隆宏・手代木祐加子・平松正吾（社会基盤学専攻）「令和 6 年能登半島地震調査  
報告」

邱文心「2024 年 4 月 3 日花蓮地震 現地調査報告」

討論

#### 6/11 公開レクチャー「災害格差の是正と弱者配慮に向けた包摂的な取組み」

本田利器 趣旨説明

石渡幹夫（新領域）「災害格差の是正と弱者配慮に向けた包摂的な取組み」

討論

## （2）学会大会、シンポジウムの企画、共催

（1）で実施した研究会で抽出された論点や研究者の人脈を活かし、学会と連携した対外的なシンポジウムを企画・共催した。

④2023 年度都市史学会大会

都市史学会の学会大会「大災害の記録と記憶」を共催した。実行委員会を機構の加藤耕一教授（実行委員長）、羽藤英二、勝田俊輔、中尾俊介で組織し、企画・運営をおこなった。シンポジウムでは、日本近世史、近代史、東アジア近代史、社会学、西洋建築史の専門家を招聘し、実行委員会のメンバーも登壇し討論をおこなった。

大会 HP : <https://suth.jp/event/convention2023/>

・日時：2023 年 12 月 16 日・17 日

・会場：東京大学工学部 1 号館 15 号講義室

・主催：都市史学会、共催：東京大学次世代都市国際連携研究機構、東京大学ヒューマニティーズセンター

・参加者：対面 75 人、オンライン 69 人

・プログラム

12 月 16 日（土） 総会・研究発表会

12 月 17 日（日） 基調講演・シンポジウム

基調講演 鈴木淳（東京大学／日本近代史）「関東大震災時の東京における消防活動の記録と記憶」

展示史料の紹介 勝田俊輔（東京大学・西洋史）

シンポジウム「大災害の記録と記憶」

趣旨説明：加藤耕一（東京大学／西洋建築史）、進行：中尾俊介（東京大学）

羽藤英二（東京大学／都市工学）「原発と津波—復興はどう記憶されていくのか—」

岩淵令治（学習院女子大学／日本近世史）「近世都市鳥取における水害記録作成と「活用」」

赤川学（東京大学／社会学）「関東大震災下の東大医学部」

吉田律人（横浜都市発展記念館／日本近現代史）「体験記から描く関東大震災—横浜市民の個人記録を中心に—」

武藤秀太郎（新潟大学／社会思想史、東アジア近代史）「東アジアからみた関東大震災」

コメント：顛原澄子（千葉大学／西洋建築史・近代建築史）

## ②2022 年度復興デザイン会議全国大会

社会連携講座「復興デザイン会議」と連携し 2022 年度の全国大会「災間を生きる都市」の共催、企画・運営をおこなった。目黒公郎教授が実行委員長をつとめ、機構から羽藤英二教授、本田利器教授、福田大輔教授、中尾俊介助教が運営委員会に入り、横張真教授がラウンドテーブルで登壇した。

その後、2023 年度大会（横浜市立大学）、2024 年度大会（東京大学）においても、羽藤英二教授、本田利器教授、福田大輔教授、中尾俊介助教が運営委員として、スタディツアー、ラウンドテーブル、講演、U30 デザインコンペの企画・運営に携わっている。

2022 年度大会 HP : [https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/symposium\\_2022/](https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/symposium_2022/)

- ・日時：2022 年 11 月 25 日～27 日
- ・会場：東京大学工学部 1 号館および 11 号館
- ・主催：復興デザイン会議、共催：東京大学次世代都市国際連携研究機構
- ・参加者：対面約 80 人、オンラインのべ約 120 人
- ・プログラム

11 月 25 日

関東大震災の遺構をめぐる復興ツアー、荒川流域治水ツアー

11 月 26 日

開会挨拶 実行委員長 目黒 公郎

U30 復興デザインコンペ公開審査

内藤 廣（建築家） 副委員長：宮城 俊作（都市工学専攻）

高橋 一平（建築家）、星野 裕司（土木計画）、乾 久美子（建築家）、栃澤麻利（建築家）、羽藤英二

基調講演：森千香子（同志社大学）「超多様化時代と『排除を生まない都市』」

コーディネーター：福田大輔

国際セッション “Refugees and Migrants in the International Society with Disasters”

Mohammad Moinuddin（大阪大学）、前川 美湖（笹川平和財団）、佐藤 美央（国際移住機関）

表彰式、挨拶

11 月 27 日

若手・学生による復興デザイン研究発表

「復旧・復興は誰のためか」

篠沢 健太 (工学院大学), 西野 淑美 (東洋大学), 横張 真、中尾俊介  
全国中学生・高校生復興デザインコンペ 2022

「流域圏で生きる」

笹川 みちる (東京財団政策研究所), 武田史朗 (千葉大学), 中村 晋一郎 (名古屋大学)

全体討議 進行 目黒公郎・本田利器・福田大輔

閉会挨拶 來山 尚義 (復建調査設計株式会社)

2023 年度大会「災間を生きる都市」(横浜市立大学)

大会 HP : [https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/symposium\\_2023/](https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/symposium_2023/)

2024 年度大会「孤立する都市」(東京大学)

大会 HP : [https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/2024\\_2/](https://dss.bin.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/2024_2/)

## 3. 2 調査活動

機構メンバーにて以下の日程で現地調査を実施した。調査成果は2024年5月23日の調査報告会にて発表をおこなった。

### (1) 南欧の公共空間と災害履歴に関する都市調査

2023年8月2日～15日の日程でイタリア、フランス、スペインの諸都市について、公共空間の実測調査、資料・文献調査を実施した。

参加者：羽藤英二、中尾俊介、増橋佳菜、中野渡凌、加藤小百合（社会基盤学専攻）

### (2) 能登半島地震被災地調査

2024年1月1日の能登半島地震の被災地調査を以下のとおり実施した。

参加者：羽藤英二、中尾俊介、松永隆宏、手代木祐加子、平松正吾（社会基盤学専攻）

2024年1/13-14 富来地区、輪島市黒島地区、珠洲市飯田地区、蛸島地区

同年2/3 穴水市穴水地区、能登町宇出津、輪島市上時国地区

同年3/31 輪島市黒島地区、輪島市海士町、鳳至町、珠洲市飯田地区、宝立地区

### (3) 台湾花蓮地震調査

2024年4月3日の花蓮地震の被災地調査を以下のとおり実施した。

参加者：羽藤英二、邱文心、謝沛宸（社会基盤学専攻）

2024年4/6-7 旧市街地、新駅周辺、米崙地区

## 4 教育活動

### 4. 1 日越大学との合同講義

2021年度～2023年度にヴェトナムの日越大学と合同講義「ポストパンデミック時代の都市論」を機構独自の講座として開講。集中講義として6, 7回の連続講義を毎年開催し、機構の教員（福田大輔教授、小熊久美子准教授（当時）、田島芳満教授、浅見泰司教授、小澤一雅教授、本田利器教授、赤司泰義教授、春日郁朗准教授）が登壇するとともに、東京大学、日越大学、ヴェトナム国家大学、ヴェトナム建設省、およびJICAより特別講師を招いた。日越大学、東京大学の大学院生が履修し、受講者には修了証を授与した。開催概要は以下のとおり。

#### （1）2021年度

- ・日程：12/14～2/1（全7回）
- ・受講者：22人
- ・講師：福田大輔教授、小熊久美子准教授、田島芳満教授、浅見泰司教授、小澤一雅教授（以上当機構）、菊本英紀教授（東京大学生産技術研究所）  
武田晋一准教授（日越大学）、NGUYEN Van Quang 博士、NGUYEN Hoang Oanh 副学長（以上、日越大学）、LE Van Trung 博士（ヴェトナム国家大学）、LUU Duc Minh 博士（ヴェトナム建設省）、PHAN Le Binh 博士（JICA）
- ・プログラム

No.	Date	Topic	Lecturers
1	12/14	Guidance and Ice-breaking Discussion	[UT] Prof. FUKUDA Daisuke @ Civil [VJU] Assoc. Prof. TAKEDA Shinichi @ MIE
2	12/16	Impacts of Pandemic on Cities	[VJU] Dr. NGUYEN Thi An Hang @ MEE [UT] Assoc. Prof. OGUMA Kumiko @ Urban
3	12/20	Natural Disaster and Urban Sustainability	[VJU] Dr. NGUYEN Van Quang @ MCCD [UT] Prof. TAJIMA Yoshimitsu @ Civil
4	1/7	Potential of Remote Learning in University Education	[VJU] Vice Rector, Assoc. Prof. NGUYEN Hoang Oanh [UT] Vice President, Prof. ASAMI Yasushi @ Urban
5	1/18	Digital Transformation in Cities	[VN] Dr. LE Van Trung (HCMC Univ. of Technology)

			[UT] Director of IINU, Adjunct Prof. OZAWA Kazumasa @ Civil
6	1/22	Urban Sustainability	[VN] Dr. LUU Duc Minh (Vietnam Ministry of Construction) [UT] Assoc. Prof. KIKUMOTO Hideki @ Arch. & IIS
7	2/1	New Urban Mobility Service in Cities	[VN] Dr. PHAN Le Binh @ JICA [UT] Prof. FUKUDA Daisuke @ Civil

## (2) 2022 年度

- ・日程：12/7～12/14（全6回）
- ・受講者：35人
- ・講師：福田大輔教授、本田利器教授、小熊久美子准教授、浅見泰司教授、小澤一雅教授  
（以上当機構）、糸井達哉准教授（建築学専攻）  
武田晋一准教授（日越大学）NGUYEN Hoang Oanh 副学長（以上、日越大学）、
- ・プログラム

No.	Date	Topic	Lecturers
1	12/7	Guidance and Ice-breaking Discussion by taking transportation problems as an example	[UT] Prof. FUKUDA Daisuke @ Civil [VJU] Assoc. Prof. TAKEDA Shinichi @ MIE
2	12/8	Resilience of infrastructure systems	[UT] Prof. HONDA Riki @ Civil
3	12/9	Impacts of Pandemic on Cities	[UT] Assoc. Prof. OGUMA Kumiko @ Urban
4	12/9	Potential of Remote Learning in University Education	[VJU] Vice Rector, Assoc. Prof. NGUYEN Hoang Oanh [UT] Vice President, Prof. ASAMI Yasushi @ Urban
5	12/12	Risk Assessment of Cities	[UT] Assoc. Prof. ITOI Tatsuya @ Arch.
6	12/14	Digital Transformation in Cities	[UT] Director of IINU, Adjunct Prof. OZAWA Kazumasa @ Civil

## (3) 2023 年度

- ・日程：11/29～12/6（全6回）
- ・受講者：17人

- ・講師：福田大輔教授、小熊久美子准教授、春日郁朗准教授、赤司泰義教授、小澤一雅教授（以上当機構）、村山顕人准教授（都市工学専攻）、森川想講師（社会基盤学専攻）糸井達哉准教授（建築学専攻）、武田晋一准教授（拓殖大学）

・プログラム

No.	Date	Class Theme	Lecturers
1	11/29	The Future of Mobility after the Pandemic	Prof. FUKUDA Daisuke @ Civil
2	11/30	Traffic-related environmental emissions and its impact on cities	Assoc. Prof. TAKEDA Shinichi @ Takushoku University [Former at VJU]
3	12/1	Impacts of pandemic on cities and some possible sustainable futures	Assoc. Prof. MURAYAMA Akito @ Urban [Moderator: Ikuro Kasuga]
4	12/1	Possibility of New Technology Innovations through the Experience of COVID-19	Assist. Prof. MORIKAWA So@Civil
5	12/4	Risk Assessment of Cities	Assoc. Prof. ITOI Tatsuya @ Architecture [Moderator: Yasuyoshi Akashi]
6	12/6	Impacts of Pandemic on Cities	Assoc. Prof. OGUMA Kumiko @ Urban [Moderator: Ikuro Kasuga]

#### (4) 参加者へのアンケート

2021年度のアンケート結果を掲載する。

##### (2-2) Are there any opinions about the organizations of the entire lecture "topics"? (optional)

4件の回答

The topics are well selected and allows students from various fields to feel relatable.

Although it will be difficult to set a schedule, I would like to take a week for group work to make a worthwhile proposal.

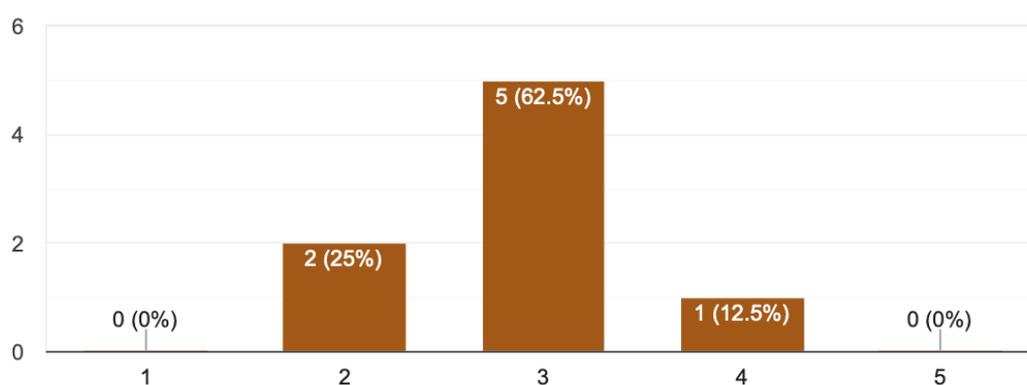
Some q&a session between speakers and students can be provided, since students do not have any formal opportunity to ask some questions

Regarding the lecture topics, I was hoping there would be a bit more on the potential influence of Covid-19 on the future of cities, such as the potential impact on office building use if remote work becomes more prevalent. Otherwise, all topics very interesting.

As per the topics for the discussion part of the lecture, I appreciated that there were many points given to discuss so that we had a big freedom of choosing

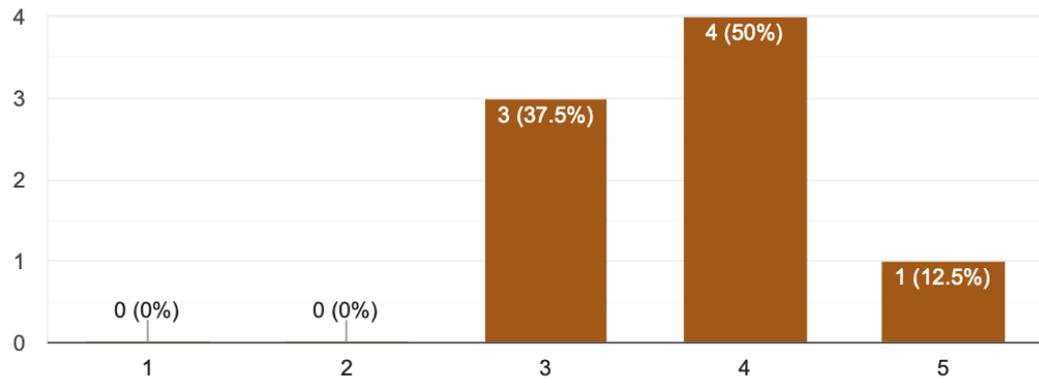
##### (3-1) What do you feel the difficulty / easiness of the lecture contents?

8件の回答



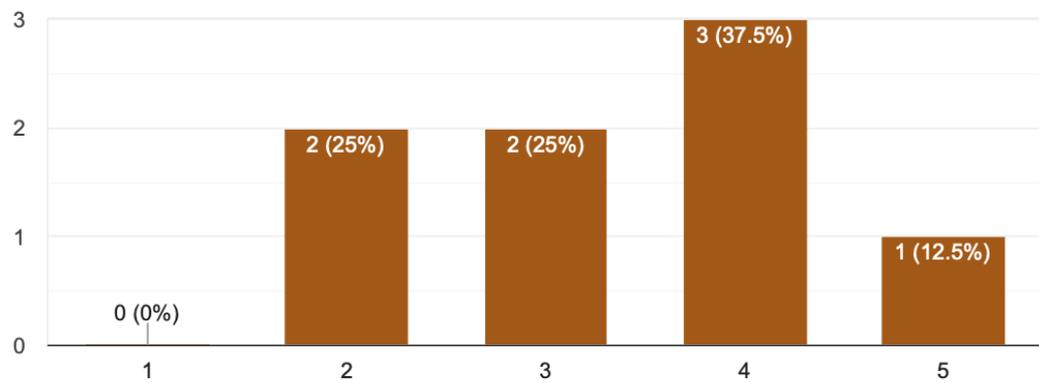
(4-1) What did you think about the cross-talks between two lecturers?

8 件の回答



(5-1) What did you think about the breakout room discussions?

8 件の回答



(6) Can you tell us your frank opinion about how to improve the quality of this types of international collaborative online lecture? What aspects do you think important to success such lecture? (optional)

4 件の回答

I think more time on breakout session would be nice and it might be good to have one moderator in each breakout room to aid the discussion.

- By using online tools for interactive teaching (google slides , Live questionnaire, e.t.c)
- Setting up a group project of about one week for socially valuable output.
- Practical research to understand the differences between cultures and national situations.

I think the proper time/lecture arrangement should be provided before the lecture starts, so we can arrange our time as soon as possible

Frankly, for a pilot lecture that was done for the first time I think it was very good. I liked the division that we had two presentations on different topic each class and there was a discussions between professors. But perhaps this lecture should take about 2h so that it is not rushed. Otherwise, personally I am happy I have taken this lecture In terms of a discussion part, as I am sure the organizers of this lecture were well aware, it very much depends on the student participation. The way this class was

## 4. 2 チュラロンコン大学との合同講義

2023年度はチュラロンコン大学との合同講義「Urban Mobility and Development」を開催した。機構から加藤浩徳教授、福田大輔教授が登壇した。詳細は以下のとおり。

- ・日程：4/4～5/2
- ・講師：加藤浩徳教授、福田大輔教授（以上当機構）、瀬田史彦准教授（都市工学専攻）、Saksith Chalermpong 教授、Chakaphan Chullabodhi、Apiwat Ratanawaraha 准教授（以上チュラロンコン大学）
- ・プログラム

No.	Date	Class Theme	Lecturers
1	4/4	Introduction and Airport, airport ground access, and urban development	Prof. Hironori Kato @ the University of Tokyo
2	4/11	Parking	Prof. Saksith Chalermpong Chakaphan Chullabodhi @ Chulalongkorn University
3	4/18	Road Traffic Congestion and Congestion Pricing	Prof. Daisuke Fukuda @ the University of Tokyo
4	4/20	Value of travel time savings in an autonomous-vehicle era	Prof. Hironori Kato
5	4/25	Equity issues	Assoc. Prof. Apiwat Ratanawaraha @ Chulalongkorn University
6	4/27	National/Regional Planning and Mobility	Assoc. Prof. Fumihiko Seta @ the University of Tokyo
7	5/2	Governance and regulations	Prof. Saksith Chalermpong

### 4. 3 留学生のサマーコース

計画交通研究会、政策大学院と連携して 2021 年度～2024 年度に国内の留学生を主対象として夏季に公開講座を開催した。詳細は以下のとおり。

#### (1) 2021 年度 UrbanTransition: Smart City, Sensor and Beyond

- ・ 日程 : 9/15
- ・ 参加者 26 人 (14 か国)
- ・ 運営 : 羽藤英二、萩原拓也 (社会基盤学専攻助教)
- ・ 講師 : 機構から羽藤英二教授、勝田俊輔教授、浅見泰司教授、小澤一雅教授が登壇し、東京大学、国交省、IHI、NEC、日産自動車、三井不動産、三菱地所、JR 東日本、清水建設より講師を招聘した。
- ・ 2021 年度「UrbanTransition: Smart City, Sensor and Beyond」プログラム (9/15)

	Theme	Lecturers
1	Opening Remarks	Eiji HATO @ the University of Tokyo Hiroshi WATANABE @ City Bureau, MLIT
2	Urban Sensing Technology and its Application	Takashi FUSE @ the University of Tokyo University
3	Dublin during the Irish Potato Famine: Coping with a Crisis	Shunsuke KATSUTA @ the University of Tokyo University
4	Pedestrian behavior monitoring using 3D laser radar technologies	Minori ORITA @IHI Corporation
5	FaceWatch Technologies for urban flow monitoring	Akihiko ICHIKAWA @NEC
6	Fukushima Recovery Planning with Autonomous Driving	Nobuyuki Kuge @ Nissan Research Center
7	Smart Cities in Japan	Kazunori OSHIMA @ City Bureau, MLIT
8	Kashiwanoha Smart City and New Generation Design	Yusuke SASAKI @ Mitsui Fudosan Co., Ltd.
9	Tokyo Marunouchi / Area Management Model Approach for The Smart City	Kazutaka KURODA @ Mitsubishi Estate CO., LTD.
10	From Link to Node:New Mobility and Busta change the regional transport networks	Yohei HARADA @ Road Bureau, MLIT
11	JR East's Open Innovation and its Application	Hiroshi IRIE @ East Japan Railway Company

12	Presentation and Discussion by Students	
13	Cities and Information	Yasushi ASAMI @the University of Tokyo
14	Digital Twin and City Construction	Masahiro INDO @ Shimizu Corporation
15	Certificate Presentation	Kazumasa OZAWA @ the University of Tokyo

## (2) 2022年度① 高速道路と自動車

- ・日程：9/20～9/21
- ・参加者 20 名（10 か国）
- ・運営：羽藤英二、萩原拓也（社会基盤学専攻助教）。
- ・講師：機構から小澤一雅教授、羽藤英二教授が登壇し、国交省、東京工業大学、東京理科大学、JR 西日本、JR 東日本、阪神高速、中日本高速道路、東京メトロ、首都高速道路、本州四国連絡高速道路、日産自動車から講師を招聘した。
- ・プログラム

9/20：連続レクチャーと現場見学

	Theme	Lecturers
1	Opening Remarks	Eiji HATO @ the University of Tokyo Katsuhiro Niwa @ Road Bureau, MLIT
2	Autonomous Driving and Road Network	Yasuo ASAKURA @Tokyo Institute of Technology
3	Disaster Damages and Responses on Expressways in Western Japan	Yukari MATSUSHITA @West Nippon Expressway Company Limited
4	Initiative for Restoration and Pavement Reconstruction of Expressway from Earthquake Disasters	Tetsuo MIYAIRI @ East Nippon Expressway Co., Ltd.
5	Recovery from the Great Hanshin-Awaji Earthquake and Future Initiatives	Yukio ADACHI @ Hanshin Expressway Co., Ltd.
6	Site Tours: Expressway construction sites (Kanto Group) Hanshin Expressway Earthquake Museum, Akashi Kaikyo Bridge, Hokudanshinsai Memorial Park (Kansai Group)	

9/21：連続レクチャー、グループディスカッション、プレゼンテーション、認定証の授与

1	Shin-Tomei Expressway and Initiatives for Automated Driving Leading edge of sensing	Toru SUZUKI @ Central Nippon Expressway Company Limited
2	Autonomous moving technology	Representative @ Toyota Motor Corporation
3	Automated Driving	Hideki YAGINUMA @Tokyo University of Science
4	Implementation of Metropolitan expressway for Major Renovations and Olympic and Paralympic games in Tokyo	Hayato TAKASE @ Metropolitan Expressway Company Limited
5	Maintenance of Long-span Bridges	Kiyohiro IMAI @ Honshu-Shikoku Bridge Expressway Company Limited
6	Presentation and Discussion by Students	
7	Evolving autonomous driving to meet societal needs -Offering value that goes beyond safety-	Kazuhiro DOI @ Nissan Motor Co., Ltd.
8	Certificate Presentation	Kazumasa Ozawa @ the University of Tokyo

### (3) 2022 年度② 「Railway System and Urban Development of Mega Cities 2022」

- ・日程：9/4～9/5
- ・運営：加藤浩徳、森川想（社会基盤学専攻講師）
- ・講師：機構から加藤浩徳教授、福田大輔教授が登壇し、三井不動産、JR 東日本、東京急行電鉄、東京メトロより講師を招聘した。
- ・プログラム

9/4：政策研究大学院大学にて連続レクチャー

	Theme	Lecturers
1	History and planning of Tokyo metropolitan area and railways	Hironori KATO @ the University of Tokyo
2	Uniqueness of urban development and railway systems in Tokyo	Daisuke Fukuda @ the University of Tokyo
3	Changes in transport demand after the pandemic	
4	Changes in real estate demand after the	Mitsui Fudosan

	pandemic	
5	Responses to the pandemic and corporate strategies	JR East, Tokyu Corp., Tokyo Metro

9/5：現場見学会

- ・日本橋エリアの商業・ビジネスエリア開発（三井不動産）
- ・品川駅の開発（JR 東日本）
- ・新木場 Depot の地下鉄オペレーション（東京メトロ）
- ・南町田の郊外開発（東急グループ）

#### （４）2023 年度 Shinkansen Summer Seminar for International Students 2023

日程：9/14～9/15

運営：加藤浩徳、森川想（社会基盤学専攻講師）。機構から福田大輔教授が登壇。

9/14：政策研究大学院大学にて連続レクチャー

Session 1: Overview of High-speed Rail Development in Japan

Session 2: Technologies and Future Strategies

9/15：三島での現場見学（JR 東海総合研修センター、浜松工場）

#### （５）2024 年度 City Transition : Smart City, Sensor and Beyond

- ・日程：9/9～9/10
- ・参加者数 26 人（15 か国、内オンライン 10 人）
- ・運営：羽藤英二、邱文心、中尾俊介
- ・講師：機構から、羽藤英二教授、赤司泰義教授が登壇し、国交省、東京大学、政策大学院大学、東京藝術大学（Port B）、IHI、日産自動車、三井不動産、JR 東日本、清水建設より講師を招聘した。
- ・プログラム

9/9: 東京大学での連続レクチャー

	Theme	Lecturers
1	Opening Remarks	Eiji HATO @ the University of Tokyo Takuya HATTORI @ City Bureau, MLIT
2	Disaster Monitoring using Geospatial Information Technology	Takashi FUSE @ the University of Tokyo University

3	Backgrounds and Challenges of Smart Building Systems: Sensing, Data and Applications	Yasunori AKASHI @ the University of Tokyo University
4	3D LiDAR Technologies for Traffic Flow Sensing in Intelligent Transport Systems	Masao ONO @ IHI Corporation
5	Fukushima Recovery Planning with new mobility service	Tsutomu SOGA @Nissan Motor Co., Ltd
6	Initiatives for Smart City Promotion in Japan	Hiroteru MURAYAMA @ City Bureau, MLIT
7	Kashiwanoha Smart City and New Generation Design	Yusuke SASAKI @Mitsui Fudosan Co. Ltd.
8	“Ekimachi Smart City” at TAKANAWA GATEWAY CITY	Yoshiya AMANAI @ East Japan Railway Co.
9	Intelligent Transport System (ITS) and Automated Driving in Japan	Shoichi TAKESHITA @ Road Bureau, MLIT

9/10 : 江東区でのスタディツアー、受講者のグループディスカッション、プレゼンテーション、キーノートレクチャー、認定証授与式

1	Study Tour in the Koto Ward	Akira TAKAYAMA, Saki TANAKA @ Port B Hironori Ooka
2	Group Discussion, Presentation	
3	Development of Collaboratively Working Robots for Construction Sites	Masahiro INDO, Shimizu, co.ltd
4	i-Construction for Smart City	Kazumasa OZAWA, GRIPS

## (6) 参加者へのアンケート

2024年度の参加者アンケートのうち自由記述部分を掲載する。

What are the most impressive part or your favorite part of the course?

Smart city of Koto-ku
All the lectures were interesting and inspiring, but I specially loved the lectures about Ekimachi, Robots in construction work.
get to know in details of on going projects, technologies, new ideas for urban development
Robots in construction and I construction was new idea so was enlightening
Most of the lectures that are provided

All. I like the lectures session, study trip, and group discussion
I really like the lectures on automated vehicles. I really learned a lot.
The proposal development

Any suggestions to make this course better or anything you want to let us know.

If there is more time to connect students, it would be great. Maybe two group-activities, with different group for individual each time.
Should be for 3 days with little more interaction time to know the participants and organizers
Please continue the good work
Breaks are really short. Maybe make it around 10-15 minutes?
I think we need more time in developing the proposal, and more time to present our presentation.

## 4. 4 スタジオ型都市設計演習

### (1) 復興デザインスタジオ

寄付講座「復興デザイン研究体講座」との連携のもと、社会基盤学・建築学・都市工学専攻を中心とした分野横断型の都市設計演習を開催した。2021年度はコロナ禍の影響を受けたが、2022年度から現地調査、現地報告を再開し、地元との対話のもと自治体・企業等との連携による設計提案の実装を目標に活動を継続している。

### (1) 2022年度

愛媛県宇和島市における豪雨災害・地震災害を想定した事前復興計画の提案

宇和島市内の市街地・集落から4か所と宇和島市全体のマスタープランへの提案をおこなった。

- ・担当：羽藤英二、本田利器、福田大輔、大月敏雄、横張真、浦田淳司（社会基盤学専攻講師）、中尾俊介、北原麻理奈（社会基盤学専攻特任研究員）
- ・受講者：社会基盤学専攻11人、建築学専攻8人、都市工学専攻10人、新領域2人
- ・社会との接続

2022年7月17日に宇和島市中央公民館にて報告会、意見交換会を実施。

## (2) 2023 年度

関東大震災から 100 年の節目に、東京都墨田区、江東区、文京区の事前復興計画と、広域的な国土計画の提案をおこなった。

- ・担当：羽藤英二、本田利器、福田大輔、大月敏雄、中島直人（都市工学専攻准教授）、中尾俊介、渡邊萌（社会基盤学専攻助教）、小林里瑛（社会基盤学専攻助教）
- ・受講者：社会基盤学専攻 10 人、建築学専攻 11 人、都市工学専攻 8 人、新領域 2 人
- ・社会との接続

国立科学博物館の企画展「震災からのあゆみー未来につなげる科学技術」展での成果展示（観覧者のべ約 20 万人）

上記展覧会の関連イベントとして、東京都内でツアー・ワークショップを開催。また、11/23 に国立科学博物館にて公開講評会「明日の復興デザイン」を実施。

ワークショップの概要は以下のとおり。

### ①墨田区京島における地域のタイムラインを模索するワークショップとスタディツアー

—

7/9、8/11 京島公民館にてタイムラインを模索するワークショップ

9/23、11/5、11/26、京島地区にてスタディツアーを開催

### ②セルフビルドの災害復旧の可能性を探るワークショップ

11/19、東京大学にて開催。

### ③江東区砂町地区の地域資源と災害リスクを市民が発見するワークショップ

11/19、森下公民館、森下地区内にて開催

### ④江東区森下地区の災害時を疑似体験するスタディツアー

11/25、砂町公民館、砂町地区内にて開催

### ⑤首都機能移転と居住地選択に関するワークショップ

11/12、11/25 国立科学博物館にて開催

※ツアーHP：[https://iinu.t.u-tokyo.ac.jp/tours\\_tokyo2050z](https://iinu.t.u-tokyo.ac.jp/tours_tokyo2050z)

## (3) 2024 年度

愛媛県宇和島市・愛南町における豪雨災害・地震災害を想定した事前復興の提案をおこなった。

- ・担当：羽藤英二、本田利器、福田大輔、大月敏雄、中島直人（都市工学専攻准教授）、中尾俊介、渡邊萌（社会基盤学専攻助教）

・受講者：社会基盤学専攻 9 人、建築学専攻 8 人、都市工学専攻 8 人、大学総合教育研究センター1 人

・社会との接続

地方自治体と都市計画・土木コンサルと連携した報告会、ツアー、展示、ワークショップを実施（本書類作成段階で継続中）。

①宇和島中心市街地：宇和島東高校と連携したワークショップ、展示、報告会

8/23 第1回宇和島東高校・東京大学ワークショップ

9/20 第2回宇和島東高校・東京大学ワークショップ

9/21 宇和島市主催の地域住民ワークショップにて報告①

11/4 商店街の文化祭「伊達な城下町」でのワークショップの成果展示

11/25 宇和島市主催の地域住民ワークショップにて報告②（高校生の報告）

※宇和島市主催のワークショップホームページ

<https://sites.google.com/view/uwajimajizenfukko/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%88%A5ws/%E5%AE%87%E5%92%8C%E5%B3%B6%E5%B8%82%E8%A1%97%E5%9C%B0?authuser=0>

②宇和島市津島岩松地区：報告会、ワークショップ、ツアー

9/18 宇和島市主催の地域住民ワークショップにて成果報告、意見交換の実施

※ワークショップホームページ

<https://sites.google.com/view/uwajimajizenfukko/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%88%A5ws/%E6%B4%A5%E5%B3%B6%E5%9C%B0%E5%9F%9F?authuser=0>

12/1 津島岩松地区でのスタディツアーの実施

同日開催の宇和島市津島町岩松の町並み重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム「これからの、岩松の町並み。」での成果報告

※イベントページ：

<https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/iwamatsumachinami/r6symposium.html>

③宇和島市遊子地区：報告会、遊子小学校とのワークショップ、スタディツアー

8/4 宇和島市主催の地域住民ワークショップにて成果報告、意見交換の実施

9/30 遊子小学校の防災授業への参加、講演、意見交換

3/11 遊子地域の津波からの避難、避難生活に関わるスタディツアーを実施予定

※ワークショップホームページ

<https://sites.google.com/view/uwajimajizenfukko/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%88%A5ws/%E9%81%8A%E5%AD%90%E5%9C%B0%E5%9F%9F?authuser=0>

#### ④愛南町御荘地区、福浦地区：報告会、住民とのワークショップの実施

8/4 愛南町、土木コンサルと連携した地域住民むけ報告会・ワークショップ

11/17-18

愛南町御荘地区、福浦地区それぞれの公民館にて、事前復興計画、災害時タイムラインに関わるワークショップの実施

#### (2) 基礎プロジェクト1、応用プロジェクト1

2022年度、2023年度の工学部社会基盤学科の演習科目「基礎プロジェクト1」「応用プロジェクト1」と連携し、地域での報告会、ワークショップ、展覧会等を実施した。

担当：羽藤英二、浦田淳司（社会基盤学科講師）、中尾俊介、小林里瑛（社会基盤学科助教）、渡邊萌（社会基盤学科助教）

#### 2022年度

「応用プロジェクト1」にて、阿南高等専門学校と連携し、徳島県阿南市の事前復興計画の提案をおこなった。以下のイベントで学生による提案の報告、意見交換、成果展示を実施した。

2/19 「阿南高専 × 東京大学 の学生による 小さな事前復興プラン発表会」

イベント HP

<https://sites.google.com/anant.ac.jp/ananjisenfukko/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

#### 2023年度

「基礎プロジェクト1」にて、東京の防災計画、公共交通の提案をおこない、江東区豊洲のミチノテラスにて展示「明日の危機—関東大震災 100年—」展に出品した。

イベント HP

<https://www.shimz.co.jp/machidukuri/project/michinoeki/bousai.html>

「応用プロジェクト1」では、愛媛県大洲市、愛媛県松山市、沖縄県沖縄市にて都市設計の提案をおこない、市民向けの現地報告、ワークショップを実施した。

2/10 中津川市・地域学連携成果発表会での成果報告

- 2/17 愛媛県大洲市での豪雨災害と事前復興のワークショップでの発表
- 3/10 沖縄市バスタ機運醸成イベントでの発表
- 3/27 愛媛県松山市道後温泉の交通計画とまちづくり提案の報告会での発表

## 4. 5 復興にかかわる連続講義

大学院講義「復興デザイン学」を機構と連携して以下のとおり実施した。毎年10名程度の多様な分野の講師を招聘し（東京大学の講師にくわえ、他大学、機関の研究者、実務者、行政の担当者）、復興の歴史、現場での実践、復興の理論についてのレクチャーと、大学院生によるグループディスカッションを実施した。

- ・担当：羽藤英二、本田利器、福田大輔、大月敏雄、横張真（～2023年度）、浦田淳司（社会基盤学専攻講師、～2023年度）中島直人（都市工学専攻准教授、2023年度～）、中尾俊介、渡邊萌、小林里瑛（社会基盤学専攻助教）

- ・受講者数

	社会基盤	建築	都市	その他	合計
2022年度	13	13	10	1	37
2023年度	7	13	8	0	28
2024年度	11	11	9	0	31

- ・プログラム

2022年度

(1) 災害復興史 中尾俊介（東京大学、社会基盤）		
4/11	石榑督和（関西学院大学、建築） 中尾俊介	東京の戦災「復興」—渋谷・池袋の戦災からの再生—
4/18	富田宏（榊原村計画） 萩原拓也（東京大学、都市計画）	漁村の災害と復興史～東日本大震災を中心とした漁村災害復興に学ぶ事前準備を考える～
5/2	大月敏雄（東京大学、建築）	住まいとまちの復興
5/9	中尾俊介	中間討論
(2) 住生活・住環境の再建 北原麻理奈（東京大学、社会基盤）		
5/16	澤田雅浩（兵庫県立大学、建築）	新潟県中越地震からの復興
5/23	西野淑美（東洋大学、社会学）	社会学から住宅再建調査に取り組んで
6/1	益子智之（早稲田大学、建築）  近藤民代（神戸大学、都市計画）	イタリアにおける歴史的市街地の復興をめぐるジレンマ—いかに乗り越えるか？— ハリケーン・カトリーナ災害の減災復興 @米国ニューオーリンズ市（2005～）×東日本大震災（2011～）

6/6	北原麻理奈（東京大学）	中間議論
(3) 都市・地域の計画 小林里瑳（東京大学、社会基盤）		
6/13	川崎興太（福島大学、都市計画）	原発被災地の復興
6/20	三宅諭（岩手大学）	岩手県の漁村地域の復興事例
6/27	角田陽介（国土交通省・元大船渡 市副市長）	東日本大震災からの復興—行政の立場 で復興に関わった体験より—
7/4	小林里瑳、浦田淳司（東京大学、 社会基盤）	中間議論
7/11	本田利器（東京大学、新領域）	最終議論

#### 2023 年度

(1) 災害復興史 中尾俊介（東京大学、社会基盤）		
4/10	田中傑（京都大学防災研究所、都 市計画）	関東大震災と帝都復興
4/17	石樽督和（関西学院大学、建築）	東京の路上の戦災復興
4/24	初田香成（工学院大学、都市計 画）	Tokyo Urbanism
5/9	中尾俊介	中間議論
(2) 事例からみる地域の復興 渡邊萌（東京大学、社会基盤）		
5/8	益子智之（東京都立大学、建築）	イタリア都市復興の論理
5/15	川崎興太（福島大学、都市計画）	原発事故から 12 年後の福島
5/22	西野淑美（東洋大学、社会学）	社会学から住宅再建調査に取り組んで
6/6	渡邊萌	中間議論
(3) 復興をめぐる諸論点 小林里瑳（東京大学、社会基盤）		
6/12	森千香子（同志社大学、社会学）	マイノリティの包摂と排除を生まない 都市
6/19	佐藤慶一（専修大学、防災）	災害対応史と首都直下地震
6/26	田中正人（追手門大学、都市計 画）	復興政策をどのように Re-design すべ きか？
7/4	小林里瑳	中間議論
7/11	本田利器（東京大学、新領域）	最終議論

#### 2024 年度

(1) 災害復興史 中尾俊介（東京大学、建築）		
4/8	大月敏雄（東京大学、建築）	仮設住宅の考え方
4/15	初田香成（工学院大学、都市計 画）	都市史からみた災害と復興
5/7	益子智之（東京都立大学、建築）	イタリア災害復興の歴史と現場

5/13	西村慎太郎（国文学研究資料館）	浪江町の歴史と文化から地域づくりを考える
5/20	中尾俊介（東京大学、建築）	災害・復興から地域を再考可能か
5/27	西村幸夫（國學院大學、都市計画）	港町とその個性
(2) 復興の現場 渡邊萌（東京大学、社会基盤）		
6/10	菊池雅彦（国土交通省）	東日本大震災における復興から、復興のあり方を考える
6/17	成井祥（浪江副町長） 永山悟（東京大学、浜通りデザインセンターなみえ）	浪江町の東日本大震災及び原子力発電所事故災害からの復興の取組について 浜通り・浪江町における「はまセン」の取り組み
6/24	乾久美子（建築家） 小野悠（豊橋技術科学大学） 羽藤英二（東京大学）	復興デザイン賞のとりくみ
7/1	吉海雄大（熊本高等専門学校、益城町地域おこし協力隊） 野口福太郎（小高ワーカーズベース）	復興支援実践論—復興まちづくりの実践と組織的アプローチ— 創造的復興に向けた小高の挑戦—持続可能な地域エコシステム創造—
7/8	影治信良（美波町長）	美波町の事前復興の現場から
7/16	本田利器（東京大学、新領域）	最終討論

## 5 社会活動

### 5. 1 宇和島市、愛南町、阿南市での事前復興のとりくみ

3. 3 スタジオ型設計演習の一環として愛媛県宇和島市・愛南町、徳島県阿南市における事前復興計画策定と、地域内での広い議論、事前準備の本格化の推進を目標に、市民にむけた成果報告、意見交換をおこなう報告会、ワークショップを実施した。

宇和島市、愛南町においては、事前復興計画の策定が行政・コンソーシアムを中心に進められつつあり、上記の報告をきっかけとした事前防災の地域での実践や、拠点施設整備の機運が高まりつつある。

徳島県阿南市では2023年度以降もワークショップ、研究会、デザインコンペの実施を継続している。

### 5. 2 国立科学博物館展示

先述のとおり3. 3の一環として、2023年度復興デザインスタジオの成果を国立科学博物館企画展「震災からのあゆみー未来につなげる科学技術」展に出展し、関連イベントとして、東京各地でのスタディツアー、ワークショップ、公開講評会を実施した。

### 5. 3 付知地域デザインミュージアム

岐阜県中津川市付知町におけるシンポジウムを以下のとおり開催した。中山間地域における地域の産業、地域資源と次世代型のモビリティの統合によるまちづくりの方針を、日本各地の研究者、実務家を招聘して議論した。同日にモビリティに関する社会実験を実施した。ともに新たに開設された付知地域デザインミュージアムにおいて開催。

企画・運営：羽藤英二、中尾俊介

会場：付知地域デザインミュージアム (<https://tted.t.u-tokyo.ac.jp/>)

開催：これまでに2回開催した（2024年度も企画中）。

2022年10月15日「Territorial Design Museums in Networks」

[https://tted.t.u-tokyo.ac.jp/events\\_ted\\_ceremony/](https://tted.t.u-tokyo.ac.jp/events_ted_ceremony/)

プログラム

第一部 TED オープニングセレモニー

開会挨拶 青山節児中津川市長

祝辞 野志克仁松山市長、土井三浩（日産自動車株式会社）、内藤廣（建築家）

対談 羽藤英二、佐多祐一（Infras）、大山雄己（芝浦工業大学）、青山節児、北原  
典明（北原建築）、早川篤志（上見屋）

## 第二部 TED シンポジウム

基調講演 伊藤毅（青山学院大学）「山の歴史を活かすデザイン」

研究報告会

児玉千絵（東京大学）「付知川のインフラ史」

北原麻理奈（横浜市立大学）「土地利用の変化から見た付知における製材工場の立  
地動態」

福谷きり（東京大学）「子供たちとつくる復興デザイン」

羽藤英二（東京大学）「旧村の歴史を活かす地域デザイン」

林立騎（那覇文化芸術劇場なはもと）「沖縄の文化芸術と日常の展開」

座談会「地域デザインの風格 その発展的継承のために」

伊藤毅、羽藤英二、林立騎、川口真沙美（日本デザイン振興会）

## 2023年10月22日「自動走行と山林都市」

[https://tted.t.u-tokyo.ac.jp/events\\_ted\\_sympto2023/](https://tted.t.u-tokyo.ac.jp/events_ted_sympto2023/)

プログラム

基調講演 鎌田実（JARI）「自動運転の社会実装に向けて」

事例報告：自動走行と地域資源を生かすまちづくり

鈴木克宗（中京学院大学）「交通拠点のこれから」

原加代子（日産自動車）「福島県浜通りにおけるまちづくり拠点とモビリティ実証の  
取り組み」

福村任生（日本大学）「地域遺産という視点—長野県飯田・下伊那地方から」

司会 中尾俊介（東京大学）

座談会「付知におけるデマンド交通を考える」

話題提供 白井帆香（東京大学）

司会 羽藤英二（東京大学）

登壇者 青山節児（中津川市長）、福嶋浩人（復建調査設計）、早川正人（付知町まち  
づくり協議会）

## 6 今後の活動方針

### 6.1 社会連携講座「次世代都市国際研究体」の開設

東京大学と東日本電信電話株式会社（NTT 東日本）の協創「東日本電信電話株式会社と国立大学法人東京大学との間における産学協創」の一環として、次世代都市国際連携研究機構と NTT 東日本が連携する社会連携講座「次世代都市国際研究体」を開設予定。次世代都市国際連携研究機構の実践と分野横断的な組織を活かし、NTT 東日本、グループ会社の NTT-ME の有するデータを基盤とした研究とまちづくりへの実装を目指す。

- ・体制：次世代都市国際連携研究機構、NTT 東日本、NTT-ME の連携
- ・設置期間：2025 年 3 月～2028 年 2 月
- ・予算：年 3000 万円（間接経費含む）
- ・内容：MMS を用いた都市空間情報データの基盤整備とまちづくりへの適用

現段階のスキームは下記のとおり。

テーマ	内容
都市計画基礎調査と都市センシングデータの融合	地方自治体の有する都市計画基礎調査データと先端的都市センシングデータを融合し、都市計画や都市戦略の将来像共有に活用しうるデータ基盤の構築・実装研究。
データ基盤のまちづくりへの適用にむけた分野横断的研究	道路空間情報の活用に向けた基礎研究 ①豪雨災害時の避難行動分析（東京都江東区） ②道路維持管理の最適化（栃木県宇都宮市） ③人口減少地域でのドローン・MMS の統合研究（北海道幕別町） ④そのほか、若手による基礎研究の公募
データ基盤を活用したまちづくり・国際教育と地域実践への展開	市民や地元企業・自治体と連携し、スタジオ型デザイン演習や留学生を巻き込んだ全く新たな教育プログラムの開発と実践。 ①分野横断型の設計スタジオと地域実践を通じたプランニングの促進 ②データ基盤のユースケースの深度化と水平展開

## 6. 2 今後の活動方針

設置期間満了後も機構の活動を継続することを検討している。現在設置を申請しており2028年2月までの設置を予定している社会連携講座「次世代都市国際研究体」を基盤としつつ、さらなる外部資金獲得を継続的に試み（社会連携講座、寄付講座の開設をふくむ）、3～5に記載した研究活動、教育活動、社会活動の拡充・深化を目指す。

- ・機構のメンバーを中心とした分野横断的な研究会の継続（3.1（1）に記載）
- ・復興デザイン会議関係のシンポジウムの企画・運営（3.1（2））
- ・被災地調査の手法開拓（3.2）
- ・留学生のサマーコースおよびスタジオ型都市設計演習の実施（4.3、4.4）
- ・事前復興の実装に向けた取組（5.1）
- ・付知地域デザインミュージアムでのシンポジウム・社会実験の実施（5.3）など。

新しい試みとして以下が挙げられる。

### ①分野横断的な都市史研究グループ

2. 1（2）に記載した都市史学会大会を機に、人文系歴史学、社会学、建築史、土木・都市計画に関する研究会の発足を準備中である。

### ②留学生のサマーコースに関連する活動の実施

計画交通研究会・政策研究大学院大学との連携を深め、次年度以降のサマーコース、見学会、研究会、インタビューなどの活動を計画している。

### ③若手研究者への研究支援と報告・議論の場の設定

機構メンバーの推薦する若手研究者（博士～ポスドク）の研究費支援をおこない、成果について討論をおこなう場を設定する。

### ④客員フェロー加入

工学系フェローとしてYafeng Yin教授（ミシガン大学教授）が任命されたことを契機に連携セミナーなどを開催する。

### ⑤他大学との連携

サマーコース、スタジオ演習、寄付講座等で得た他大学との連携の強化。方法は検討中であるが、スタジオ型都市設計演習における東京藝術大学との連携、i-Constructionシステム学寄付講座を中心としたオーストラリア・シドニー大学との連携などを想定している。